

初期臨床研修プログラム

1. プログラムの名称

総合南東北病院初期臨床研修プログラム
プログラム責任者名 後藤 博美

2. プログラムに参加する施設とその規模の概要

【基幹型臨床研修病院】

附属総合南東北病院

【協力型臨床研修病院】

公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院：研修実施責任者 金森 良（精神科）
独立行政法人国立病院機構 福島病院

：研修実施責任者 杉浦 嘉泰（脳神経内科）

社会医療法人将道会 総合南東北病院

：研修実施責任者 松島 忠夫（脳神経外科）

附属南東北福島病院

：研修実施責任者 菅野 智之（外科）

公立岩瀬病院

：研修実施責任者 吉田 直衛（内科）

一般財団法人太田総合病院 附属太田西ノ内病院

：研修実施責任者 井上 実（内科）

医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院

：研修実施責任者 笹沼 仁一（脳神経外科）

福島県立医科大学附属病院

：研修実施責任者 鈴木 弘行（呼吸器外科）

東北大学病院

：研修実施責任者 杉浦 久敏（呼吸器内科）

社会医療法人 あさかホスピタル：研修実施責任者 新国 茂（精神科）

公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院

：金澤 正晴（内科）

公益財団法人 星総合病院

：研修実施責任者 野水 整（外科）

【研修協力施設】

附属南東北医療クリニック：研修実施責任者 深谷 保男

附属南東北眼科クリニック：研修実施責任者 小林 健太郎

附属南東北がん陽子線治療センター：研修実施責任者 村上 昌雄

福島県赤十字血液センター：研修実施責任者 氏家 二郎

医療法人やまさわ内科：研修実施責任者 山澤 正則
医療法人やすらぎ会いがらし内科外科クリニック
：研修実施責任者 五十嵐 忠行
医療法人のざわ内科クリニック：研修実施責任者 野澤 靖美
矢内クリニック：研修実施責任者 矢内 康一
山本内科医院：研修実施責任者 山本 純
医療法人ひろさか内科クリニック：研修実施責任者 廣坂 朗
医療法人IMCいしだ内科：研修実施責任者 石田 浩徳
せいの内科クリニック：研修実施責任者 清野 弘明
医療法人てちがわら内科：研修実施責任者 鉄地川原 正顕
医療法人健全会おおがクリニック：研修実施責任者 太神 和廣
モミの木クリニック：研修実施責任者 福井 謙
医療法人佑和会 雷クリニック：研修実施責任者 雷 毅
福島県立南会津病院：研修実施責任者 佐竹 賢仰
福島県立宮下病院：研修実施責任者 横山 秀二
只見町国民健康保険朝日診療所：研修実施責任者 若山 隆
医療法人社団 新生会 南東北第二病院：研修実施責任者 永田 兼司

【基幹型臨床研修病院】

附属総合南東北病院の概要

病床数 461床

診療科名

脳神経外科 外科 整形外科 心臓血管外科 形成外科 呼吸器外科
麻酔科 耳鼻咽喉科 眼科 アレルギー科 内科 神経内科
消化器内科 循環器科 呼吸器科 気管食道科 小児科 小児外科
産婦人科 泌尿器科 肛門科 皮膚科 性病科 リハビリテーション科
歯科 歯科口腔外科 放射線科 精神科 救急科 放射線治療科
放射線診断科 病理診断科 矯正歯科 消化器外科

専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
臨床研修指定病院
救急告示病院
日本医療機能評価機構認定(Ver. 6.0)
ISO9001:2008認証取得
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本内科学会認定教育関連病院
日本呼吸器学会認定施設

日本脳神経外科学会専門医研修プログラム基幹施設
日本神経学会認定教育施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
日本泌尿器科学会認定専門医教育施設
日本胸部外科学会教育施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本整形外科学会認定研修施設
日本形成外科学会認定施設
日本医学放射線学会認定放射線科専門医総合修練機関
日本消化器外科学会認定専門医修練施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本病理学会認定専門医研修認定施設B
日本消化器病学会専門医認定施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本放射線腫瘍学会認定協力施設
日本核医学会認定専門医教育病院
日本がん治療認定医機構認定研修施設
腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設
胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設
日本呼吸器外科学会認定基幹施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本成人心臓血管外科手術ベータベース（JACVSD）参加認定施設
日本脊髄外科学会認定訓練施設
日本認知症学会認定教育施設
日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医研修施設
日本静脈経腸栄養学会・NST稼働施設
日本歯科麻酔学会認定医研修機関
日本老年医学会認定施設
日本インターベンショナルラジオロジー学会認定専門医修練施設
日本心臓血管麻酔学会認定専門医認定施設
日本脳ドック学会認定脳ドック施設
日本心臓血管内視鏡学会認定教育施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
日本胆道学会認定指導施設
日本呼吸器内視鏡学会認定専門医認定施設
日本栄養療法推進協議会認定・NST稼働施設
日本口腔外科学会認定関連研修施設
日本顎顔面インプラント学会認定研修施設
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設

日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
臨床修練指定病院（外国医師）
Ai 撮影参加施設
日本乳癌学会認定施設
日本ハイパーサーミア学会認定施設
新専門医制度 内科専門研修基幹施設
新専門医制度 外科専門研修基幹施設
新専門医制度 放射線科専門研修基幹施設
新専門医制度 整形外科専門研修基幹施設

病院の沿革、特徴

当院は昭和56年12月1日脳神経外科病院として発足し、以来、郡山市を中心とする県中地区の脳外科疾患、特に脳の交通外傷及び脳血管障害などによる中枢神経系救急患者の治療に専念してきた。開院後数年を経ずして、脳神経外科のみならず、循環器疾患、消化器疾患などの救急患者も多数来院するようになり、市民の強い要望に応じて主に救急患者を対象とした診療科を新設した。さらに緊急状態から回復後の患者リハビリテーションの必要にせまられ、関連施設を増設してきたところである。

昭和59年1月1日、脳卒中制圧運動の徹底普及を大眼目とする研究財団（財団法人脳神経疾患研究所）の許可がえられたため、病院名を附属病院として機能させた。その後救急病院の指定を受け、福島県中部の救急医療の重要な担い手となっている。

【協力型臨床研修病院】

1) 公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院

病床数 407床

診療科名

精神科 心療内科 内科 歯科 歯科口腔外科

病院の沿革、特徴

当院は昭和8年福島県では初めての精神科病院として郡山脳病院を開設し、28年財団法人郡山精神病院に組織を改め、31年原町市に分院雲雀ヶ丘病院を開設、55年本院の名称を針生ヶ丘病院と改め61年本館を改築。

平成6年4月から法人名を財団法人金森和心会と改称した。周辺の環境に恵まれた建物も明るく、全職員が『明るく優しく温かく』を合言葉にしている。歴史は古いが中身はいつも新しく、精神科ソーシャルワーカー・臨床心理士・作業療法士も早くから採用し、各種精神障害に適応した多彩な診療活動を行っている。

2) 独立行政法人国立病院機構 福島病院

病床数 303床

診療科名

内科 脳神経内科 呼吸器科 消化器内科 新生児内科 小児科
整形外科 脳神経外科 小児外科 眼科 耳鼻いんこう科
リハビリテーション科 放射線科

病院の沿革、特徴

昭和17年8月、軍事保護院傷痍軍人保養所として創設され、昭和20年12月、厚生省に移管、国立福島療養所として発足し、結核医療、重心医療を中心に診療を実施してきた。

平成16年3月、国立療養所福島病院と国立郡山病院が統合され、国立福島病院として発足し、同年4月1日、国立病院、療養所の独立行政法人化に伴い、独立行政法人国立病院機構福島病院となった。

統合による診療の柱は、循環器病（脳疾患）、成育医療、呼吸器疾患（結核）、重症心身障害、骨・運動器疾患に対する医療が中心となっている。

特に、成育医療分野では、福島県の地域周産期医療センターとして、ハイリスク分娩と新生児医療が一体となった周産期医療も軌道に乗り、福島県内全域はもとより近隣の医療機関からも搬送を依頼されるケースが増加している。

病院の理念である「『納得』の医療で地域や社会に貢献」を実践していくため、中心となる医療のほか、整形外科の地域救急輪番参加など、地域に貢献できる診療体制の維持と発展を念頭に医療を行っている。

3) 社会医療法人将道会 総合南東北病院

病床数 271床

診療科名

脳神経外科、内科、外科、泌尿器科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科
呼吸器内科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科
救急科、老年内科

病院の沿革、特徴

昭和60年12月、岩沼市の総合的病院として誘致を受け現所在地に5科目（内科・外科・小児科・脳神経外科・泌尿器科）60床の個人病院として開設。昭和62年救急医療機関の指定を受けるとともに2回の増床を経て総病床136床となり、平成元年に医療法人設立認可を受ける。その後、診療科の増設を繰り返し、平成10年には271床に増床するとともに増築を行い、リハビリテーション施設を中心とした機能を充実させ、平成11年度に総合リハビリテーション施

設の承認を受けた。平成13年度からは岩沼地域保健医療圏（名取市、岩沼市、亘理町、山元町）の病院群輪番制病院等運営事業による二次救急指定病院を受託し、仙台市以南の中核的病院として、救急を中心とした地域医療への貢献と急性期から回復期リハビリテーション病棟を持ち慢性期を経て在宅医療までの一貫したサービスを併設する介護老人保健施設ほか介護保険事業所と連携を密にして提供している。平成23年12月には地域に必要とされる救急医療を担う医療機関として公益性・公共性を認められ宮城県知事から社会医療法人の認定を受けた。

4) 附属南東北福島病院

病床数 233床

診療科名

脳神経外科 脳神経内科 整形外科 泌尿器科 外科 肛門科 形成外科
皮膚科 心臓血管外科 循環器内科 消化器内科 総合診療科
歯科・歯科口腔外科

病院の沿革、特徴

平成9年10月 財団法人脳神経疾患研究所 附属南東北病院 附属福島医療クリニックとして創設。当初は脳神経外科、循環器科を中心とした救急医療に特化した19床の有床診療所として診療を開始した。

平成14年2月 医療法人実践会 南東北福島病院を併合し、財団法人脳神経疾患研究所 附属南東北福島病院（一般病床68床）となった。

平成19年9月 福島県立リハビリテーション飯坂温泉病院の廃止に伴い、そのリハビリテーション機能の委譲を福島県から許可された。平成20年6月 新病棟竣工し、病床数233床(病床区分：一般189床、療養44床)となり、現在に至る。急性期治療から回復期リハビリテーションへのシームレスな医療を実践し、併設の老健施設や在宅医療との密な連携を図り、地域における包括的ケアの中心的役割を果たしている。

更に、脳卒中、心筋梗塞などの生活習慣病予防を目的とした健診（人間ドック、脳ドック）も充実しており、ミニ健康講座、総合健康講座、出前講座などの啓発活動を自治体と連動して行っている。

5) 公立岩瀬病院

病床数 279床

診療科名

内科 消化器内科 循環器内科 総合診療科 心療内科 脳神経外科
膠原病内科 外科 整形外科 リウマチ科 小児科 泌尿器科 産科婦人科
形成外科 皮膚科 眼科 放射線科 麻酔科

病院の沿革、特徴

当院は、明治5年に当地方の先覚者により、近代医学の導入のため、福島県最初の県立須賀川病院として創立された。次いで福島、若松、平、中村(現相馬市)、三春等の主要地に分院を置き、当時の本県医療の一大中心であった。明治6年には医学校が併設され、故後藤新平伯をはじめ、数百人の名医、名士を輩出している。

その後、幾多の変遷を経て、大正12年岩沼郡下町村の組合組織により、現在の名称である【公立岩瀬病院】となった。

更に、石川郡、田村郡、西白河郡の一部が加入、その後の町村合併を経て、開設から130年(平成14年現在)を迎え、1市2町3か村の県南地方唯一の公的基幹病院として、時代とともに重要な役割を担っている。

6) 一般財団法人太田総合病院 附属太田西ノ内病院

病床数 1086床

診療科名

内科、糖尿病内科、腎臓内科、人工透析内科、血液内科、心療内科、呼吸器内科
消化器内科、脳神経内科、循環器内科、アレルギー科、リウマチ科、小児科
外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科
小児外科、皮膚科、泌尿器科、肛門外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
気管食道・耳鼻咽喉科、精神科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科
病理診断科、歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科

病院の沿革、特徴

福島県内で最大規模の病院の一つである。県中医療圏の災害拠点病院であり、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、救命救急センターなどの機能を有し、県中医療圏、県南医療圏及び相双医療圏の高度医療を提供する病院として機能している。病院の基本理念は「生命の尊厳・平等な人間愛」。

7) 医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院

病床数 497床

診療科名

内科、外科、消化器内科、内視鏡内科、消化器外科、循環器内科、心臓血管外科
呼吸器内科、呼吸器外科、糖尿病内科、腎臓内科、透析内科、神経内科
脳神経外科、整形外科、産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科
形成外科、美容外科、麻酔科、眼科、放射線診断科、放射線治療科、救急科
歯科口腔外科、心療内科、リハビリテーション科、精神科、乳腺外科
ペインクリニック内科、血液内科、血管外科、病理診断科
内分泌・代謝内科、内分泌外科、肝臓内科、総合診療科（院内標榜）
脊椎脊髄末梢神経外科（院内標榜）、新生児内科

病院の沿革、特徴

平成24年、8月神奈川県川崎市北部の不足病床を補い、産婦人科・小児科を含む地域医療の充実と救急医療体制づくりに寄与することなどを目的とした川崎市の公募において、南東北グループのひとつ医療法人社団三成会が選ばれ、川崎市医療審議会、川崎市の承認を得て開設された。新百合ヶ丘総合病院においても、南東北グループが得意とする先進医療や高度な予防医学の実践、さらには脳・心臓循環器救急やがん治療に貢献するという社会的使命を果たし、将来の救急急性期病院のモデルとなりうるよう医療をすすめる。

8) 福島県立医科大学附属病院

病床数 778床

診療科名

循環器内科 血液内科 消化器内科 リウマチ膠原病内科 腎臓・高血圧内科
糖尿病・内分泌代謝内科 脳神経内科 呼吸器内科 漢方内科 甲状腺・内分泌内科
腫瘍内科 総合内科 呼吸器外科 消化管外科 肝胆膵・移植外科 乳腺外科
小児外科 甲状腺・内分泌外科 脳神経外科 整形外科 心臓血管外科
形成外科 産科 婦人科 小児科 小児腫瘍内科 眼科 皮膚科
泌尿器科・副腎内分泌外科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 心身医療科 放射線科
放射線治療科 核医学科 麻酔・疼痛緩和科 病理診断科 歯科口腔外科
救急科 リハビリテーション科

病院の沿革、特徴

特定機能病院、福島県がん診療連携拠点病院・基幹災害医療センターであり、同県北部地方の救命救急センターとしての役割を持つ。日本第3位の面積と過疎地域を抱える県の中核病院として、ドクターヘリを独自運用している。また原子力発電産業が県東部に立地するため、原子力災害緊急医療施設を有する

9) 東北大学病院

病床数 1160床

診療科名

総合診療科 循環器内科 総合感染症科 腎・高血圧・内分泌科 血液内科
リウマチ膠原病内科 糖尿病代謝科 消化器内科 加齢・老年病科 漢方内科
心療内科 呼吸器内科 腫瘍内科 総合外科 心臓血管外科 整形外科
形成外科 麻酔科 緩和医療科 呼吸器外科 救急科 婦人科 産科
泌尿器科 脳神経内科 脳神経外科 精神科 小児科 遺伝科 小児外科
小児腫瘍外科 小児腫瘍科 皮膚科 眼科 耳鼻咽喉・頭頸部外科
リハビリテーション科 てんかん科 高次脳機能障害科 放射線治療科
放射線診断科

病院の沿革、特徴

東北大学病院は特定機能病院として、最新の医療機器を揃え最先端の医療を行い、移植医療をはじめとする高度医療を実践している。宮城県および東北地方の医療の中心的存在として各地の医療施設と強い連携を築いている。

10) 社会医療法人 あさかホスピタル

病床数 495床

診療科名

総合心療科（精神科・心療内科・児童精神科） 内科 神経内科 脳神経外科
放射線科 歯科 小児歯科 矯正歯科

病院の沿革、特徴

当院は、昭和38年に創立し、56年以上に亘り民間の精神科単科病院として地域での精神科医療を担ってきた。

許可病床は495床で、精神科救急病棟を60床有しており、地域の精神科基幹病院として医療観察法による鑑定入院及び措置入院をはじめ多くの入院を受け入れている。

当院の使命は、地域の皆様の健やかな心と幸せのために全人的で、先進的な医療・保健・福祉を提供することです。

心と脳の専門機関として、一人ひとりを“人”として全人的に理解し、心と身体を総合的に捉え、現代の心の病に、最新で、質の高い医療を提供していくこと、そしてあさかホスピタルグループ全体が連携し、地域で必要とされる医療、保健、福祉サービスの統合的な担い手として、地域との繋がりを大切に、皆様に信頼される病院になることを目指しています。

1 1) 公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院

病床数 305床

診療科名 内科、糖尿病内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、リウマチ科、神経内科、心療内科、精神科、小児科、外科、食道・胃外科、大腸・肛門外科、乳腺外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、呼吸器外科、内視鏡外科、心臓血管外科、脳神経外科、産婦人科、整形外科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科口腔外科、皮膚科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科

病院の沿革、特徴

当院は明治20年に湯浅医院として創業、昭和28年に財団法人湯浅報恩会を設立した。

病床数305床の総合病院で、開設以来一貫として「患者さん第一」を理念に掲げている。地域医療機関との連携を深めつつ、急病患者、紹介患者、救急搬送患者の受入れを積極的に進めており、郡山医療圏においては二次救急輪番制の担当病院として毎週木曜日の内科、毎週金曜日及び第2日曜日の全科の救急医療を担っている。郡山駅前前の再開発事業として、平成23年2月に現在の病院へ移転、新築し、全国でも珍しい病院とマンションが一体となった複合施設となっている。平成24年には地域における中核的な役割を担う医療機関として、地域医療支援病院の承認を受けた。

1 2) 公益財団法人 星総合病院

病床数 430床 (一般 415床、精神 15床)

診療科名

内科 心療内科 消化器内科 循環器内科 呼吸器内科 神経内科 緩和ケア内科
リウマチ科 小児科 外科 消化器外科 呼吸器外科 乳腺外科 肛門外科
整形外科 形成外科 美容外科 脳神経外科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 気管食道外科 精神科 リハビリテーション科
放射線科 病理診断科 麻酔科 歯科 歯科口腔外科

病院の沿革、特徴

大正14年に開院し、急性期医療に対応した二次救急病院として地域医療に貢献している。2007年地域医療支援病院の承認を受け、地域の医師との病診連携、病病連携の充実を図っている。2000年に日本医療機能評価機構の認定(一般病院B)を受け、2002年厚生労働省より臨床研修病院に指定、2004年度より研修医を受け入れている。平成25年に移転し、地域に根ざした様々な機能を備えた新病院になる。1万坪という広大な敷地内には病院の他、健康増進施設、看護学校、保育園、患者図書室、公園など併設されており、「地域に寄り添う“おらが病院”」という当院のコンセプトが実現されている。

3. 協力型病院及び協力型施設の指導医

【協力型臨床研修病院】

公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院：	精神科	金森 良
独立行政法人国立病院機構 福島病院：	小児科	石井 勉
社会医療法人将道会 総合南東北病院：	脳神経外科 外科 麻酔科・救急科	松島 忠夫 吉野 泰啓 赤間洋一
附属南東北福島病院：	脳神経外科 外科	佐藤 園美 菅野 智之
公立岩瀬病院：	小児科 産婦人科	小田 慎一 安田 俊
一般財団法人太田総合病院 附属太田西ノ内病院：	内科 腎臓内科 リウマチ・膠原病科 血液内科 麻酔・救急科 糖尿病内科	井上 実 佐藤 衛 菅野 孝 神林 裕行 篠原 一彰 鈴木 進
医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院：	消化器内科	廣石 和正

福島県立医科大学附属病院：	循環器内科	竹石 恭知
	消化器内科	大平 正弘
	リウマチ・膠原病内科	右田 清志
	腎臓・高血圧内科	風間 順一郎
	糖尿病・内分泌代謝内科	島袋 充生
	脳神経内科	金井 数明
	呼吸器内科	柴田 陽光
	消化管外科	河野 浩二
	肝胆膵・移植外科	丸橋 繁
	整形外科	青田 恵郎
	呼吸器外科	鈴木 弘行
	乳腺外科	大竹 徹
	小児外科	田中 秀明
	心臓血管外科	横山 斉
	小児科	細矢 光亮
	産科・婦人科	藤森 敬也
	皮膚科	山本 俊幸
	総合内科	濱口 杉大
東北大学病院	: 呼吸器内科	杉浦 久敏
社会医療法人 あさかホスピタル	: 精神科	新国 茂
公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	: 産婦人科	鈴木 博志
公益財団法人 星総合病院	: 産婦人科	加藤 克彦

4. 初期臨床研修の目的

臨床研修の基本理念（医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令）

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる 負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

5. 臨床研修の到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナルリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療が出来るレベルの資質・能力を習得する。詳細については、別添資料参照。（臨床研修の到達目標、方略及び評価）

6. 経験すべき症候、経験すべき疾病・病態について

別紙添付資料の経験すべき症候、経験すべき疾病・病態についてを参照

7. 研修の特色

- 自由選択期間が長く、自分に合ったローテートを立案することができる
- 協力病院が多いので他の市中病院や大学での研修ができる（例：東北大学病院、西ノ内病院、福島県立医科大学、寿泉堂総合病院、星総合病院、針生ヶ丘病院、あさかホスピタル）
- 24時間体制の救急センターを運営しており、一般的疾患から専門性を必要とする救急疾患まで症例が豊富である
- 放射線診断機器が充実し、臨床各科と放射線科・病理診断科による合同カンファレンスが充実している
- 放射線治療装置（陽子線、IMRT、サイバーナイフ等）が整備され、放射線治療医が多数おり、がんサージカルボード等治療に関する合同カンファレンスが充実している
- 各診療科が研修医の受け入れ、教育に熱心である
- 研修医専門担当のスタッフがいる
- 2年間の初期臨床研修終了後も、新専門医制度の基幹施設となっている。
(内科・外科・脳神経外科・放射線科・整形外科)

8. 募集人員

一年次研修医 14名

9. 研修計画

＜初期臨床研修プログラムの策定＞

研修方式は2年間の総合研修方式である。内科24週、救急部門（ブロック研修4週・麻酔科8週のうち4週・当直の並行研修4週分含む）12週、外科8週、麻酔科8週（内4週を救急部門研修とする）、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週、地域医療4週以上を必修として各々をローテートする。一般外来研修については、外科・総合診療科・小児科・地域医療での並行研修を4週行う。それ以外の期間については自由選択科で研修が可能である。

【基本プログラム】

週数	1~4	5~8	9~12	13~16	17~20	21~24	25~28	29~32	33~36	37~40	41~44	45~48	49~52
1年次	内科 (24週)						救急部門 (4週) ※1	麻酔科 (8週) ※2	外科 (8週)	精神科 (4週)	小児科 (4週)		
	副直日直体制(17:00~8:30)指導医1名 院内オンコール体制(8:30~17:00)指導医1名						副直日直体制(17:00~8:30)指導医1名 院内オンコール体制(8:30~17:00)指導医1名						
2年次	産婦人科 (4週)	地域医療 (4週)	自由選択科										
	副直日直体制(17:00~8:30)指導医1名 院内オンコール体制(8:30~17:00)指導医1名												

- ※ 1 内科については、基本的には当院での研修を行うが、研修医の希望で福島県立医科大学附属病院、東北大学病院にて研修も可能である。
- ※ 2 外科については、基本的には当院での研修を行うが、研修医の希望で福島県立医科大学附属病院にて研修も可能である。
- ※ 3 地域医療について、研修協力施設から複数施設を合わせて4週間研修する。
- ※ 4 到達目標の未到達がある場合は、自由選択期間を使って補完する場合がある。
- ※ 5 在宅医療の研修は、地域医療または自由選択期間を利用して行う。
- ※ 6 CPC 実施施設：原則当院で行う
- ※ 7 【自由選択科目】

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、呼吸器外科、小児心臓外科、放射線科、病理診断科、麻酔科、産婦人科、小児科、周産期センター 精神科、地域保健、糖尿病内科、地域医療、総合診療科、腎臓内科、血液内科、リウマチ/膠原病科、在宅医療科

◆精神科については（公財）金森和心会 針生ヶ丘病院・社会医療法人 あさかホスピタルにて研修する。

- ◆独立行政法人国立病院機構 福島病院 ……小児科研修可能
- ◆社会医療法人将道会 総合南東北病院 ……脳神経外科、外科、麻酔科・救急科研修可能
- ◆附属南東北福島病院 ……脳神経外科、外科研修可能
- ◆公立岩瀬病院 ……小児科・産婦人科研修可能
- ◆公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院 ……産婦人科研修可能
- ◆公益財団法人 星総合病院 ……産婦人科研修可能

- ◆ (一財) 太田総合病院 附属太田西ノ内病院
 - ・・・内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病科、血液内科、麻酔・救急科、糖尿病内科
研修可能
- ◆ 医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院
 - ・・・消化器内科・呼吸器内科研修可能
- ◆ 福島県立医科大学附属病院
 - ・・・呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科 神経内科、小児科
周産期センター産婦人科、臓器再生外科
器官制御外科、心臓血管外科、皮膚科
リウマチ/膠原病科研修可能
- ◆ 自由選択科目については、研修期間中でも変更が可能である。

研修先は、研修医に一任する。

【自由選択研修病院・施設】

附属総合南東北病院、公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院、独立行政法人国立病院機構 福島病院、社会医療法人将道会 総合南東北病院、附属南東北福島病院、公立岩瀬病院、一般財団法人太田総合病院 附属太田西ノ内病院、医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院、福島県立医科大学附属病院、東北大学病院、社会医療法人 あさかホスピタル、公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院、公益財団法人 星総合病院、附属南東北医療クリニック、附属南東北眼科クリニック、附属南東北がん陽子線治療センター、福島県赤十字血液センター、医療法人 やまさわ内科、医療法人やすらぎ会いがらし内科外科クリニック、医療法人のざわ内科クリニック、矢内クリニック、山本内科医院、医療法人ひろさか内科クリニック、医療法人IMCいしだ内科、せいの内科クリニック、医療法人てちがわら内科、医療法人健生会おおがクリニック、モミの木クリニック、雷クリニック、福島県立南会津病院、福島県立宮下病院、只見町国民健康保険朝日診療所、医療法人社団 新生会 南東北第二病院

- ※ 6 2年間の研修プログラムについては、マッチング終了後に研修管理委員会と研修医が相談して決める。
- ※ 7 研修協力施設での研修を最大3ヶ月とする。

10. 指導と管理体制

研修管理委員会名簿、指導医名簿は別紙参照

1 1. 研修プログラムの管理運営

研修プログラムの管理運営は、研修指導責任者が集まって開催される“研修管理委員会”を中心に行われる。研修管理委員会において研修の評価を行い、それに基づいてその年度の研修プログラムを協議し、計画を立て、必要な修正を行う。

1 2. 教育に関する行事

① オリエンテーション

研修第1週程度オリエンテーション週間として設定。

院内諸規定
施設設備の概要と利用法
図書・文献検索
病歴管理室
保健医療を行う上での留意事項
診療記録、診断書、処方箋、紹介状等の書き方
インフォームド・コンセント、医療法規等
リスクマネジメントについて
看護部から
臨床検査科、病理診断科
地域医療連携について
各種実習

② 卒後教育講義：各診療科の指導医による

各種救急疾患に対する診断・治療に対する講義
各診療科の初期診療や各種疾患に関する講義

③ 科長回診

④ 抄読会・症例検討会

毎週水曜日・金曜日午前7時55分～8時50分に行われている。

⑤ CPC

3ヶ月に1回程度金曜日午前7時55分～8時50分に開催されている。

⑥ 研修医による症例検討報告会

研修医1人あたり年2回開催されている。

1 3. 指導体制

原則として一人の研修医に一人の指導医ないし上級医がつく。

14. 研修期間中の評価方法

分野ごとの研修修了の際に、指導医を始めとする医師及び医師以外の医療職が、研修医評価表（様式 18～20）を用いて、到達目標の達成度を評価し研修管理委員会で保管する。また、到達目標の達成度について、年 2 回、プログラム責任者または研修管理委員会委員による研修医に対する形成的評価を行う。研修医は自己評価をプログラムの自己評価欄に記入する。

研修医及び指導医は、「臨床研修の目標、方略及び評価」の「I 到達目標」（別紙参照）に記載された個々の項目について、研修医が実際にどの程度履修したか随時記録を行う。

研修の進捗状況の記録については、インターネットを用いた評価システム等を活用する。

②研修期間終了時の評価

15. 研修期間終了時の評価

研修医の研修期間の終了に際し、プログラム責任者は、研修管理委員会に対して研修医ごとの臨床研修の目標の達成状況を臨床研修の目標の達成度判定表（様式 21）を用いて報告し、その報告に基づき、研修管理委員会は研修の修了認定の可否についての評価を行う。

評価は、研修実施機関の評価及び臨床研修の目標の達成度の評価（目標等の達成度の評価及び臨床医としての適性の評価）に分けて行い、両者の基準が満たされた時に修了と認める。

16. 2年間のプログラム終了後のコース

当院において引き続き各診療科研修を継続するか、大学または他施設で研修、研究に従事するかの進路については研修医の選択に任せる。

17. 研修医の処遇

- (1) 身分：正職員
- (2) 給与：当院給与規定による。
- | | | | |
|-----|------------|-----|------------|
| 1年目 | 給与（年俸、税込み） | 2年目 | 給与（年俸、税込み） |
| | 6,000,000円 | | 6,540,000円 |
- ・ 時間外手当：有
 - ・ 休日手当：有
- (3) 勤務時間：8：30～17：00
- ・ 各科カンファレンスやCPC等は時間外に行われるので、必要に応じて午後5時以降も研修に当てることが望ましい。受け持ち患者が重症になった場合は院内に宿泊することが必要なことがある。（仮眠設備、入浴設備等あり）
- (4) 休暇：4週7休、年末年始休暇（12月31日～1月3日）
- 有給休暇（1年次：3ヶ月後3日、6ヶ月後10日 2年次：16日）
- 1年次のみ精勤休暇2日（入社3ヶ月後）
- (5) 当直：回数（約4～6回／月）
- ・ 研修1年目の当初6ヶ月は当該科指導医について見習い当直をする。
 - ・ その後1年目後半より2年目は副当直として月約4回程度割り当てられる。
- (6) 研修医の宿舎：借り上げ住宅の家賃の一部補助（上限70,000円／月）
- (7) 研修医室：有（1室）
- (8) 社会保険：有
- ・ 公的医療保険：政府管掌健康保険
 - ・ 公的年金保険：厚生年金
 - ・ 労働者災害補償保険法の適用：有
 - ・ 国家・地方公務員災害補償法の適用：無
 - ・ 雇用保険：有
- (9) 健康管理：健康診断年2回
- (10) 医師賠償責任保険：病院において加入、個人加入は任意
- (11) 外部の研修活動
- ・ 学会、研修会等への参加：可
 - ・ 学会、研修会等への参加費用支給の有無：有

18. 研修期間中の注意事項

研修期間中のアルバイト診療に禁止について

次のとおり、初期臨床研修期間中にはアルバイト診療を行うことはできない。

【医師法第16条の2第1項】

診療に従事しようとする医師は、二年以上、医学を履修する課程を置く大学に附属する病院又は厚生労働省大臣の指定する病院において、臨床研修を受けなければならない。

【医師法第16条の3】

臨床研修を受けている医師は、臨床研修に専念し、その資質の向上を図るように努めなければならない。

19. 研修医の募集及び採用の方法

(1) 募集方法：公募

(2) 応募必要書類

- ・ 卒後臨床研修プログラム採用申請書（本院指定用紙）
- ・ 基本プログラム希望調査表（本院指定用紙）
- ・ 履歴書（本院指定用紙）
- ・ 健康診断書
- ・ 成績証明書（CBT 成績表、OSCE 成績表含む）

(3) 選考方法：書面審査、健康診断及び面接

(4) 募集及び選考の時期：募集時期 下記の希望する面接日の前日まで必着

(5) 面接試験日：2020年8月19日（水）

2020年9月2日（水）

2020年9月30日（水）

(6) マッチング利用の有無：有

研修管理委員会 委員長より

現代の医療は高度化しており、あらゆる分野において要求される情報は極めて多くなっています。その中で医師は人の命を左右する立場にあり、その責任は大きく重いものです。我々の年代と異なって、今医学部の卒前教育はかなり充実されていますが、それでも国試合格後すぐに臨床ができるわけではありません。人の命を預かる仕事ですので、2年間の卒後臨床研修の目標である「医師としての人格を涵養し、全人的な臨床能力・幅広い診療能力の基本を身につける」ことが必要です。従って、卒後研修および教育は十分なものでなければなりません。

当院では厚生労働省の指針に従い、コア科および必修科、さらに専門各科に内容のあるプログラムを準備しています。研修医にはスーパーローテイト方式でコア科、必修科を研修し、各科の多数の一般的な急性および慢性疾患を経験することによって、プライマリーケア、画像診断、臨床検査ならびに患者さんへの対応能力など、幅広い臨床の基礎的知識と技量の修得を目指して頂きます。研修2年目後半では、自分が将来専攻する診療科の研修も可能です。

研修終了後、当院は新専門医制度の外科・内科・脳神経外科・放射線科・整形外科の基幹施設となっており、そのまま専門医を目指す事も可能ですし、大学を含めた他施設での研修、研究の道も開かれております。

当院は地域の第一線の中核病院ですので、様々な臨床経験を積み満足できる成果をあげることができます。自分の可能性を伸ばすための臨床研修を行いたいという皆様の積極的な参加を期待し、歓迎します。

研修管理委員会 委員長
後藤 博美